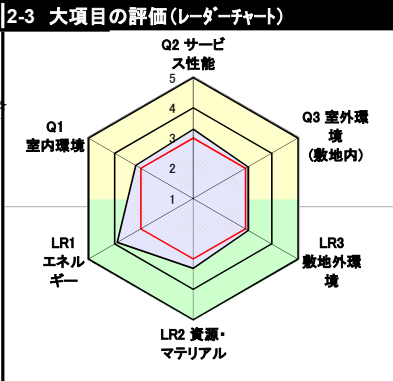
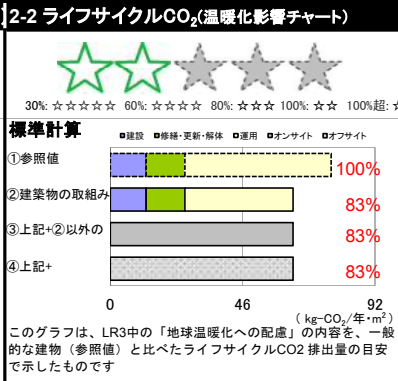
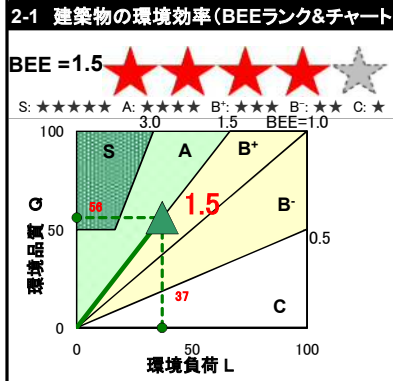
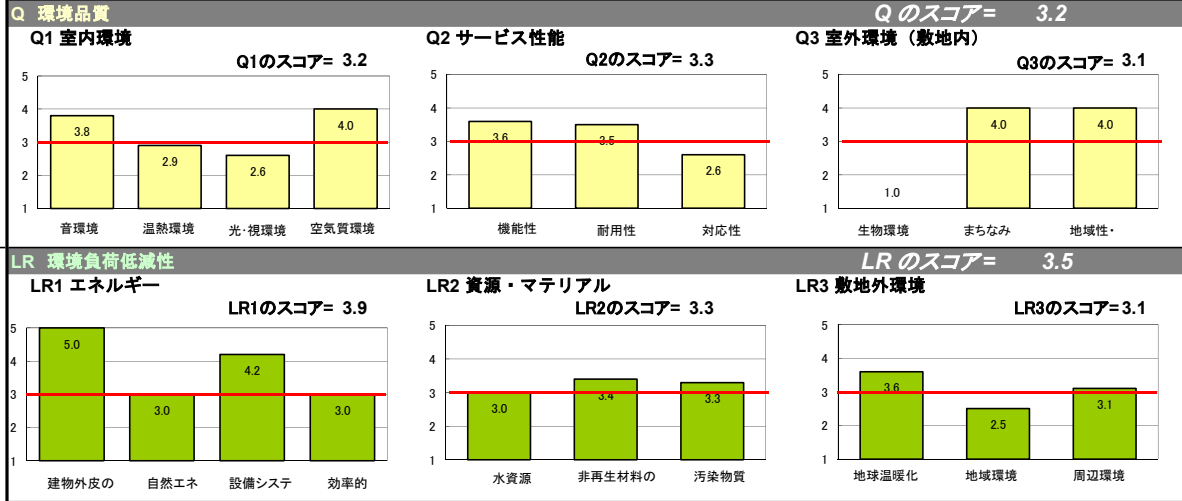


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	蟹江町多世代交流施設	階数	地上3階建
建設地	海部郡蟹江町大字西之森字海山32	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	200 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,500 時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2017年7月28日
敷地面積	2,918 m ²	作成者	榑黒川建築事務所 寺田智之
建築面積	1,050 m ²	確認日	2017年7月31日
延床面積	2,383 m ²	確認者	榑黒川建築事務所 高嶋繁男



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



3 重点項目

①地球温暖化への配慮	3.6	③敷地内の緑化	1.0
②資源の有効活用	3.2	④地域材の活用	4.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) 1.6 %

建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) 0.0 %

<外装材に使用した地域性のある材料>
愛知県北設楽郡設楽町産材木材を利用したあずまや
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
愛知県北設楽郡設楽町産木質内装材

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
		Q 建築物の環境品質												
Q1 室内環境														3.2
1 音環境														
1.1 室内騒音レベル														3.8
1.2 遮音														3.0
1 開口部遮音性能														5.0
2 界壁遮音性能														5.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														-
1.3 吸音														3.0
2 温熱環境														2.9
2.1 室温制御														3.3
1 室温														3.0
2 外皮性能														3.0
3 ゾーン別制御性														4.0
2.2 湿度制御														2.0
2.3 空調方式														3.0
3 光・視環境														2.6
3.1 昼光利用														1.8
1 昼光率														1.0
2 方位別開口														-
3 昼光利用設備														3.0
3.2 グレア対策														-
1 昼光制御														-
3.3 照度														3.0
3.4 照明制御														3.0
4 空気質環境														4.0
4.1 発生源対策														5.0
1 化学汚染物質														5.0
4.2 換気														3.0
1 換気量														3.0
2 自然換気性能														3.0
3 取り入れ外気への配慮														3.0
4.3 運用管理														3.0
1 CO ₂ の監視														1.0
2 喫煙の制御														5.0
Q2 サービス性能														3.3
1 機能性														3.6
1.1 機能性・使いやすさ														3.0
1 広さ・収納性														-
2 高度情報通信設備対応														-
3 バリアフリー計画														3.0
1.2 心理性・快適性														4.0
1 広さ感・景観 (天井高)														-
2 リフレッシュスペース														4.0
3 内装計画														4.0
1.3 維持管理														4.0
1 維持管理に配慮した設計														4.0
2 維持管理用機能の確保														4.0
2 耐用性・信頼性														3.5
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.8
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														4.0
2 免震・制震・制振性能														3.0
2.2 部品・部材の耐用年数														3.5
1 躯体材料の耐用年数														4.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														4.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														4.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0
2.4 信頼性														3.0
1 空調・換気設備														3.0
2 給排水・衛生設備														3.0
3 電気設備														3.0
4 機械・配管支持方法														3.0
5 通信・情報設備														3.0

3 対応性・更新性				2.6	0.29				2.6
3.1 空間のゆとり				3.0	0.31				
1 階高のゆとり			標準的な階高とした。						
2 空間の形状・自由さ				3.0	1.00				
3.2 荷重のゆとり				2.0	0.31				
3.3 設備の更新性				3.0	0.38				
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)					0.30				3.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	地域産材を活用したあずまやを採用した。	4.0	0.40				4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				4.0	0.30				4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	地域産材を活用した。	5.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.5
LR1 エネルギー					0.40				3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			断熱材と開口部の遮熱処理により外皮熱負荷を低減した。	5.0	0.30				5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20				3.0
3 設備システムの高効率化			省エネルギー 性のある 設備機器を採用した。	4.2	0.30				4.2
4 効率的運用				3.0	0.20				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				
集合住宅の評価									
4.1 モニタリング									
4.2 運用管理体制									
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.3
1 水資源保護				3.0	0.15				3.0
1.1 節水				3.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63				3.4
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	再生砕石RC-40	3.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体から容易に取り外す事の出来る素材を採用した。	5.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22				3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.68				
1 消火剤									
2 発泡剤(断熱材等)			GWPIに配慮した材料を採用した。	4.0	0.50				
3 冷媒				3.0	0.50				
LR3 敷地外環境					0.30				3.1
1 地球温暖化への配慮		①	標準的な外構計画とした。	3.6	0.33				3.6
2 地域環境への配慮				2.5	0.33				2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自	近隣が住宅地であるため、渋滞及び事故回避に配慮した。	5.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33				3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自		3.0	0.33				
2 振動		独自		3.0	0.33				
3 悪臭				3.0	0.33				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				3.0	0.70				
2 砂塵の抑制									
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				3.7	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害に配慮して照明計画を行った。	4.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

蟹江町多世代交流施設

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.5	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	2.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:1.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				4.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	愛知県北設楽郡設楽町産材木材を利用したあずまや
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	愛知県北設楽郡設楽町産木質内装材

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 幅広い世代の利用者に配慮し、地域の方が利用しやすく安全面に留意した計画としている。 また、町の魅力をアピールできる施設となるよう眺望の確保や地域に根ざした文化のアピールを行っている。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 眺望の確保に伴い、建物西側に開口面積が多くなるため、日射遮蔽LowEガラスを採用している。外気に面する躯体裏には断熱材を打込み、外気による熱負荷を低減している。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 耐候性及び耐久性のある素材を採用し、建物の長寿命化に配慮した。 また、材料の清掃性に配慮すると共に、サービススペースを分散してメンテナンス性を向上するよう努めた。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 地域産材の利用に配慮した。地域循環バスの停留所ともなるピロティ(駐車場)を設置し、夏季及び降雨時でも快適に利用者が来館できるよう配慮した。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物への熱負荷を低減するため、外気に面する躯体面への断熱材の徹底と、西面開口部への遮熱Low-Eガラスを採用した。また、設備機器についても省エネルギー性の高い機器を採用した。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 一部リサイクル品を利用し、資源の再利用に努めた。 また、長期的な改修を見越して、躯体から容易に間仕切り及び仕上げを取り外す事のできる計画とした。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 透水性アスファルト舗装の採用等、標準的な雨水の流出抑制を行った。また、近隣の住宅街への配慮と、高齢の来館者に配慮して、明快な駐車動線と間口の大きな駐車入口を設置する事とした。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。